

2024 年度 高温ガス炉プラント研究会

第 4 回運営会議

議事録

高温ガス炉プラント研究会事務局

(株)桜門イノベーションリサーチ

1. 日時 : 2024 年 9 月 27 日 (金) 9:00~10:00

2. 形態 : オンライン会議 (ZOOM)

3. 運営会議メンバー (順不同・敬称略)

会 長 : 岡本 孝司 (東京大学)

会長代理 : 山本 一彦 (学術著作権協会)

会 員 : 諸菱 亮太 (大林組)、小林 智弘 (鹿島建設、代 : 市川禎和)、森 由佳 (清水建設)、持丸 雅典 (東芝エネルギーシステムズ)、石垣 嘉信 (富士電機)、谷平 正典 (三菱重工業)、濱本 真平 (Blossom Energy)

T A : 都筑 和泰 (エネルギー総合工学研究所) / 西村 洋亮 (東京大学)

事務局 : 石塚 冬樹 (桜門イノベーションリサーチ)

4. 配付資料

運営 4-0 2024 年度 高温ガス炉プラント研究会 第 3 回運営会議 議事次第

運営 4-1 第 19 回定期講演会計画

参考資料 1 2024 年度 第 3 回運営会議 議事録

参考資料 2 2024 年度 委員会兼情報交流会議

5. 議事概要

(1) 岡本会長あいさつ

- ・9月10日の委員会兼情報交流会議は多数の参加のもと懇親会も含めて盛会で、今後に向けて有意義な会合であった。
- ・イギリス大使館のトム・クロス氏にイギリス政権交代についての意見を聞いた。原子力政策は労働党も消極的でなく、このまま推進されるのではないかとのことであった。
- ・9/10会議でのJAEAの発言によると、イギリスの高温ガス炉プロジェクトは遅れ気味だが進みつつあるとのことであった。サイトは北方のスコットランドに近く、機会があれば訪れたい。大洗視察の次はイギリスツアーを組めればと思う。
- ・日本でもGX関連プロジェクトが進むと思う。高温ガス炉プラントの国内建設は厳しいかもしれないが、イギリスでは着実に進んでいる。実設計・実プラント建設を行うことはその後の進展につながる。研究会はそれらの状況に対応できる体制としたい。

(2) 第19回定期講演会計画（運営4-1、事務局）

【討議】

<講演者とのコンタクトについて>

- ・エネ庁と文科省へのコンタクトは会長にお願いできるか。
 - （会長）文科省はコンタクトできるが、エネ庁は新しい課長に代わってから挨拶に行っていない。三菱重工からアポイントを取っていただきたい。
 - （谷平会員）神戸を通じて取ることになる。契約がまとまる段階で挨拶に行く時期になっている。アポイントの段取りは行う。
- ・（事務局）次回運営会議（11月11日）までに講演者を確定したい。三菱重工の講演についても前回の講演者に打診していただき、内諾が得られれば正式にお願いする。

<リモート講演の担当について>

- ・九大と福井大の先生の講演はリモートになる可能性があるが、PC操作の担当を森会員にお願いしたい。
 - 講演会は配信するのか。
 - 配信はせず、講演のみリモートで行う。前回のポーランドでは会長にPC操作をやっていただいたが、今回は担当者を決めたい。
 - （森会員）担当を引き受ける。やり方について把握したい。
 - （事務局）今後事務局にて先生方と講演詳細についてやり取りするが、リモートについての意向を確認したうえで適切なタイミングで引き継ぐこととしたい。方法は、ZOOMの接続リンク（ID、パスコード）や接続タイミング等の調整を行ったうえで、当日は手持ちPCに先生方に事前接続していただき、講演の番でそのPCを持って講演台に上がり、HDMIケーブルをつなぎ替えてスクリーンに映し出す手順になる。

<講演会テーマについて>

- ・加藤先生の講演は「グリーントランスフォーメーション（以下GX）への高温ガス炉の貢献」であるが、その趣旨でテーマを考えてはどうか。

- 過去の講演会で「2050 年カーボンニュートラル」というテーマはあったが、「GX」という言葉は出ていない。高温ガス炉の役割と関連付けた形になるとよい。
- 「高温ガス炉」ということばを明確に打ち出す必要がある。
- ・文言は考えるとしてキーワードとして「GX」という言葉を入れるかどうか。
- 「GX」をキーワードにするのは賛成。ただ国際的に見て GX という単語がどういう印象を与えるのかわからない。
- テーマと講演内容がリンクしないのではないか。講演会前半はこれまで同様、プロジェクト進捗関連で、藤本先生も後藤先生も GX 関連にならないのではないかと。藤本先生は水素の話もされると思うが、後藤先生は GX 関連ではないと思う。テーマと講演内容が合わない印象にならないよう先生方にテーマに沿った内容としていただくようお願いすることも考えられる。
- 時間配分も各 20 分は長くないか。3 先生の順番と役割分担が難しいが、割り切って見栄えの良いテーマにするのであれば反対はしない。
- 前回はイギリス案件で盛り上がって「世界に羽ばたく・・・」というテーマが適切であったし、前々回も「エネルギー安全保障」も講演に関連していたが、今回は加藤先生の GX という言葉に引っ張られすぎという感がある。
- 大学の活動紹介のような内容であれば「GX」とはならない。「大学との連携」や「オールジャパンでの開発」という趣旨ではどうか。
- そうなら講演内容との相関が高くなる。大学の先生方の講演は今年の目玉なので、キーワードに「大学」という言葉を含めるのはいい案と思う。
- GX は言葉として古びていくので、使うなら今かと思う。テーマを設定すれば、講演者も意識してくれると思うのでこのテーマはありと思う。
- GX というキーワードに興味があり意義はない。
- GX に加えて「大学との連携」を含めてはどうか。
- 大学の先生方の講演があり、産官学が揃ったというイメージが打ち出せるとよい。
- 近日発表される新エネルギー基本計画にも「GX」という言葉が入ると思う。「産官学」もキーワードになると思う。
- 過去に大学の先生の講演はあったが、前面に押し出すのは初めて。「GX」、「産官学」、「オールジャパン」で開発を進めているというイメージが出せればと思う。
- 良いアイディアと思う。「産官学による GX に向けた高温ガス炉のイニシアチブ」。
- 「産官学高温ガス炉 GX イニシアチブ」、接続詞をつけずに名刺を並べる。
- メインテーマを名詞だけにして副題で説明するような手もある。
- 「GX」、「産官学」、「イニシアチブ」のキーワードを組み合わせで候補を作り、次回運営会議にて決めることとする。

<テーマ候補（例）>

- ①「GX 推進への高温ガス炉産官学イニシアチブ～オールジャパンで未来を目指す～」
- ②「高温ガス炉開発の進展～産官学連携による GX への貢献～」
- ③「産官学における高温ガス炉研究開発」

＜リモート講演の進め方について＞

- ・最後の総括討議で先生方の発言を求めるケースはあるか。また先生方も講演会自体を聴講したいということもある。そうするとハイブリッド配信に準じる体制を組む必要がある。ハイブリッド会議で人を二人しか呼ばないというイメージになる。
- 前はポーランドからのリモート参加で、会長の PC に事前接続したうえで講演を行っていただいてそのまま総括討議に入ったが、特に発言はなかった。会場の様子は PC を会場に向けてポーランド側からも見えるようにしていただいた。そのような形でどうか。
- 冒頭から藤本先生、後藤先生に会場の様子を見ていただき、プレゼンを共有するという感じにする必要がある。
- リモートか講演自体を聴講されるか、などの意向を確認したうえで考えるが、リモートを前提とした準備は必要。

＜時間配分について＞

- ・大学の先生の講演 20 分×3 人、総括討議 20 分となっているが、前者を短縮し後者に配分してはどうか。
- 60 分を例えば 45 分にしてその分、総括討議を増やすことにする。

＜中国視察ツアーについて＞

- ・中国の視察ツアーについて本研究会としてどう関与するのか。延期になり 12 月ぐらいに決まったという話を聞いている。情報共有や関連官庁への連絡はするのか。
- 中国視察ツアーは研究会と別のアクティビティで、今のところ関与はしていない。積極的に関与すべきという意見であれば考えたい。
- 向こうのトラブルで 12 月も厳しいのではないか。
- 12 月 11 日の確度が上がっていると聞いている。
- ・昨今の日中情勢にも関係するので、エネ庁や外務省には話がいつている。主催者からプラント研究会で紹介してくれとの要請があって紹介し、何人が参加予定している。
- ・プラント研究会の冠はつけず、必ずしも積極的に関与する必要はないが、情報共有はしていきたい。成果をこの場で話してもいい。
- ・前に行ったときは建設中であった。現在稼働している高温ガス炉は大洗、北京、石島湾ぐらいで、運転中のプラントを見られる機会は貴重である。

6. 決定/アクション事項

- ・（会長）文科省へのコンタクト。
- ・（谷平会員）エネ庁へのアポイントの段取り。貴社の前回講演者の意向確認。
- ・（森会員）リモート講演の PC 操作担当。
- ・本日の議論をもとに講演会テーマ案を作成。次回運営会議（11/11）で決定する。
- ・大学の先生の講演時間を短縮し、総括討議の時間を増やす。

ー以上ー